



《24名の盛会だった総会 報告》

日時：6月4日（土）午後3：00～

会場：「桜はなび」（金沢市本町）

総会： 議案は当日提示、承認

講演： 山田友一氏（副会長）

「金沢龍馬會創立時の話し」

懇親会： 4,000円（酒・飲料持ち込み）

6月24日（土）「桜はなび」にて「金沢龍馬會総会」を開催しました。

参加者は山田/不破/蛭子/中田/佐藤/守山/吉田/紐野/中城/松岡/朝日/周藤/北川/小幡/池田/堀野/松下/川端/中村/工藤/江上/針原、会友藤井、及びゲストとして越前前田会長と計24名でした。

一、総会

順調に行われ議案が採択・批准されました。

二、講演会 副会長山田友一氏

「金沢龍馬會創立時の話し」

「自分は金沢龍馬會の発足を新聞で知り入会した。旧県庁の新館で第一回総会を行った。当時の資料を持参し陳列するので興味ある方は見て欲しい。本日配布したペーパーは10周年の時、報告したものである。」

その後山田氏は、当時の武内会長と福野事務局長の思い出を語られた。「武内さんは音楽に秀でておられた。福野さんは筆まめな方であった。当時懇親会は会員が経営されている店を順番に回った。」

そして長崎の上野彦馬写真館で撮った有名な龍馬の写真と、高知桂浜にある龍馬像との違いを説明された。「以前社中の橋本会長より“金沢龍馬會は社会に対して何をしているのか”と問われた。従ってミニイベントもよいが、ボランティア活動も考える必要があるのでは」と提言された。

最後に「加賀藩にも勤王の志士がいる。小川幸三、安達幸之助などである。彼らのことを調べるのも面白い」という言葉で締め繰りました。その後、わざわざ越前から参加された前田会長より「北陸三県の交流を増やしたい。」

加賀藩のことも知りたい」との発言がありました。

三、親睦会

恒例の如く参加者間で交流が行われました。かなり盛り上がり、今後のミニ講演の講師にも見通しが立ちました。

乾杯の音頭は紐野県議、締めの挨拶は不破県議にお願いしました。参考となるお話しでした。

最近女性の参加が多く今回は、福井の前田会長を含め7名でした。彼女たちの期待を裏切らない運営に努めたいと存じます。いつものことですが、桜はなびの守山さんにお世話になりました。

《特報》

全国大会第35回龍馬 World in 旭四万十

日時：10月28日（土）受付開始12:30

場所：高知県四万十市（以前の中村市）

本大会：四万十市民文化センター 13:00～

参加費 無料（但し予約制）

交流会：新ロイヤルホテル四万十 18:00～

参加費 10,000円

エクスカージョン：10月28日（土）

及び10月29日（日）

各コースとその時間、参加費は添付の通り

その他10月27日（金）には前夜祭があります

なお恒例の如く、現地集合・現地解散ですが、ホテルが必要な方は申し出てください。大会を通じて予約します。

志士たちが活躍した長崎とは⑱

中濱万次郎

今回も志士とは言えないが影響力は絶大である。アメリカではジョン万次郎、愛称は「ジョン・マン」(John Mung)。そして長崎へは何回も訪れている。初回は連行され尋問を受けた。文政10年（1827年）今の高知県土佐清水市で生まれ、漁師の次男である。父が早世し貧しく、天保12年（1841年）14歳で初漁にて漂流し、無人島である伊豆諸島の鳥島にたどり着いた。



仲間と一緒に米国の捕鯨船に救助され、2年後船長の養子となりマサチューセッツ州で暮らした。船員養成の教育を受け捕鯨船に乗り組んだ。鯨を追いかけ世界中あちこちの海域を転戦している。

その後、故郷へ帰る決意をし、ハワイにて一緒に難破した仲間と合流し、ペリー来航2年前の嘉永4年(1851年)本船から離れボートで琉球に着いた。

琉球で取り調べを受け、次いで薩摩藩で取り調べと言いながら開明藩主であった島津斉彬より質問を受け、造船術・航海術を教授した。

更に洋学校「開成所」で英語講師をした。そして長崎に連れて行かれ長崎奉行の取り調べを受けた。奉行所のお白州で18回も取り調べられた。

アメリカで洗礼を受けたクリスチャンであったが、彼にとってよく意味が分からぬ「踏み絵」を踏んだため、翌年「キリシタンの疑いはない」として土佐帰国を許可された。

そこで吉田東洋らの取り調べを受け、同時に同居した河田小龍が万次郎の体験を聞き取り後日「漂異紀畧(ひょうそんきりやく)」を記した。この河田小龍は若い龍馬に大きな影響を与えた人物である。

土佐で士分に取り立てられ、藩校「教授館」で教授となった。嘉永6年(1853年)にはペリー来航があったため、江戸に呼ばれ幕府直参の旗本となった。安政4年(1857年)には江戸の「軍艦教授所」の教授となり、万延元年(1860年)咸臨丸にて通訳として太平洋を横断。

元治元年(1864年)薩摩藩に呼ばれ「開成所」教授、翌年には長崎で薩摩藩の船舶である「桜島丸」(原名「ユニオン号」)は薩摩藩名義で購入され「桜島丸」となり亀山社中が介在し長州藩に譲渡され「乙丑丸」となり、関門海峡で海戦に参加)など5隻を購入。慶応2年(1866年)土佐藩「開成館」教授となり、後藤象二郎と共に長崎・上海へ行き龍馬が船中で考案したといわれる船中八策で有名な「夕顔」等5隻を購入。

この頃龍馬も長崎に滞在した(但し当時お尋ね者だった龍馬と会ったとの史料はなし)。その後、再度薩摩藩に招かれるが幕末の状況で江戸へ戻った。維新後は東京大学前身の開成学校の英語教授となった。明治31年(1898年)死去。

数奇な人生を送った。幕府の直参旗本でありながら、薩摩藩や出身地の土佐藩との関係が親密であり、龍馬をはじめ志士に多大な影響を与えた。島津斉彬、吉田東洋、河田小龍、後藤象二郎、岩崎弥太郎、勝海舟、福沢諭吉、グラバーなどとそうそうたる英傑たちと交流があった。

彼は英語を教え、同時に造船・航海術・操船を教示した。当時外国に目を開いていた代表的士人は彼を通じて世界を見た。さらに彼が購入した薩摩藩や土佐藩の船は龍馬と密接な関係があり、歴史の証人となった。彼はいろいろな意味で維新に貢献したといえる。

彼は何人かの幕末・維新の偉人と同様外国語使いとして評価された。アメリカ人とはネイティブで話しができる。そのおかげで時代の要求に応えることができた。発音は学校で習うようなものでなく、カタカナ表記すると違和感を覚えるが、実によく通じる。相手があまりに親密に話しかけるので逆にスパイだと通訳仲間から逆恨みされることがあったらしい。少年の時、日本で学問を受けていないので書く方はダメであった。

しかし捕鯨船での経験が豊富なため、通訳以外に日本での捕鯨や島嶼開拓に能力を発揮した。もっと長生きするか、企業を設立すれば岩崎弥太郎のように起業家になったかもしれない。

参照：ウキペディア、長崎新聞

長崎奉行所跡近くにある「サン・フランシスコ教会跡」。

慶長19年(1614年)教会破却後、「桜町牢」となった。多くのキリシタンが収容された。仲濱万次郎は同じ容疑で収容されたが、「キリシタンの疑いはない」と釈放



第1回ミニイベント

《篆刻体験》

さて新たに始めましたミニイベントですが、第一回として8月19日(土)「篆刻体験」を実施。

参加者は不破/堀野/森川/池田 4名でした。

第2回ミニイベント

《兼六園・金沢城遊覧》

8月26日(土)第二回ミニイベントとして「兼六園・金沢城遊覧」を行いました。

参加者は堀野/中村/佐藤/吉田の4名でした。

●年会費納入のお願い

令和5年4月から来年3月迄の年会費：

¥3,000-

例会ご出席の折か次の口座まで送金下さい。

郵便局 口座No 00780-5-38627

口座名義 金沢龍馬会

振込手数料は龍馬会が負担。3千円のみです。

【編集後記】

皆さま、今年も宜しくお願いします。心の中に常“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第37号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会長：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@mu.j.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>

